

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) 株ダイセル マルチプルプロダクションカンパニー 姫路製造所 広畑工場

1 環境保全活動に関する方針等

1-1 環境保全活動に関する方針

環境方針として以下の内容を定め公表している。

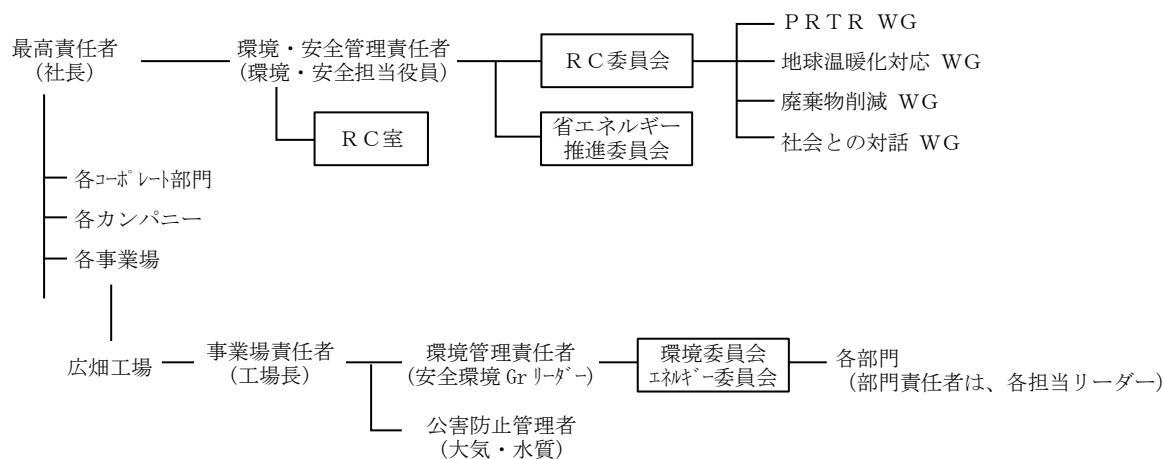
常に高いレベルの信頼を得るため、顧客が求める品質・環境を追求した製品を実現し、安定的に供給する。

これを実現するために、下記の内容で品質・環境方針を定める。

1. 全てのプロセスを通して以下の目的を達成します。
 - ・安定的に顧客要求事項並びに適用される法的要求事項を満たす製品を顧客に提供します。
 - ・当工場の事業活動に係わる環境関連法規制、及び当工場が同意したその他の要求事項を順守します。
2. 「経営方針」および「中期計画」に基づき、各部門別は部門「品質目標」および「環境目的、目標」を年度毎に定めて部門内で展開し、達成のため取り組みます。
3. 各部門は、更なる顧客満足度の向上および環境保全のため、品質・環境マネジメントシステムおよびパフォーマンスの有効性を定期的に評価し、継続的に改善します。

計画や年度ごとの取り組み状況については、(株)ダイセル ホームページ並びに、「CSR 報告書」で公表する。

1-2 環境保全活動に関する組織体制



2 環境保全活動の実施状況等

項目	取組結果	今後の取組計画
省エネの推進 過去5年度間のエネルギーの使用に係る原油換算原単位を年平均1%以上改善に取り組む。	◇2021年度はエネルギーの使用に係る原油換算原単位、対前年度4.2%の削減を行ったが、5年間平均では1.2%の悪化となっている。これは、エネルギー換算製造量が年々減少しており、固定エネルギー量が占める割合が多くなり、原単位の改善が出来ていない。特に、近年夏場、暑くなった事で、冷却能力不足となり、冷却水ポンプを2台運転する必要があり、電力量が増加し、更に原単位を悪化させた。	過去5年度間のエネルギーの使用に係る原油換算原単位を年平均1%以上改善に取り組む。
地球温暖化ガス排出量削減 温室効果ガス排出量（対2005年）削減の取組み	燃料転換・生産の減産に伴う、使用エネルギー量の減少等により温室効果ガス排出量(対2005年)を、32%削減した。又、温室効果ガス排出原単位（対2005年度）を8%改善した。	継続して削減に努める。
大気汚染物質、水質汚濁物質排出量監視 現状で十分低い値を維持できているため、現状維持の監視を行う	環境監視計器による監視体制を維持し、大気汚染物質、水質汚濁物質の排出量について適正に維持されている事を確認している。	継続して実施する。
廃棄物適正管理 ゼロエミッションへの再挑戦への下地作りと、リサイクル率回復を図る	処理委託先での適切処理の確認を実施した。又、RPF化の推進等により、リサイクル率：78%（対前年：11%上昇）に上昇した。又、埋立率は、1%（対前年：1%減少）となった。	リサイクルアイテムの探求によりリサイクル率の上昇を図る。
化学物質適正管理 SDSの完全収集	新規取扱化学物質（31物質）のSDSを完全に収集を行った。制改訂から10年以上経過したSDSについて再度提出依頼を行い、SDSの最新化を行っている。PRT法に基づく、対象物質の排出移動量について、確認し、報告を行った。	継続して実施する。
環境コミュニケーション 環境情報の公開に努める	2021年版環境・安全報告書を作成し、ご来客等に配布した。 ダイセルグループ会社として(株)ダイセルの環境・安全報告書にデーターを記載し、ホームページに掲載している。	継続して実施する。
環境教育 環境方針に基づく環境保全に関する従業員教育の実施	環境教育計画に基づく教育を実施した。事業所環境委員会等を通じ、全従業員へ環境情報について伝達を行った。	継続して実施する。